

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890101243
法人名	株式会社メディックス
事業所名	グループホーム パートナーハウスやまがき
所在地	松山市下伊台町1293番3
自己評価作成日	平成27年11月23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の季節行事の参加、施設内でレクや外出行事を毎月考え飽きのない生活支援を行っている。 ・床暖房により、冬でも足元から暖かい。 ・季節を肌で感じられる環境で、喧騒から離れゆっくりとした生活が送れる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ●開設前には、近所のお宅にあいさつうかがったり、自治会の寄り合い時には、法人や事業所の説明を行う等して理解を得られるよう取り組んだ。5月に中学校で地区の運動会が行われた際には、管理者が組の一員として参加し、近所の方達と一緒に競技に出た。10月の秋祭りにはみこし、11月には亥の子が来てくれた。運営推進会議時に、地域の方から「移動スーパーが来る日に地域の方も利用できるよう声かけしてはどうか」と提案があり、管理者は近所のお宅を廻って案内した。現在、2軒ほどのお宅の方が利用している。 ●毎月外出の予定を立てて、菊花展を見に行ったり、お寺参りに出かけたりしている。又、ユニットによっては、大型スーパーに出かけてフードコートでおやつを食べて帰るようなこともある。この一年間、利用者が生まれ育った場所に、複数の利用者で出かけてみることに力を入れて取り組んだ。利用者は喜ばれて、「こんなに変わったのか」と感想を話し、以前の様子等についても話してくれたようだ。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 パートナーハウスやまぶき

(ユニット名) つつじ

記入者(管理者)

氏名 権名津 太志

評価完了日 27年 11月 25日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所の全員が理解と把握ができるようミーティング等で話し合いを行い共有を試みている	
			(外部評価) 今年9月に法人介護事業所全体で基本理念を「幸せの追求」、スローガンを「あるがままを笑顔で支える 家族と共に仲間と共に 地域と共に」と作っており、事業所にも掲げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 季節行事や地域の方に来てもらえるような行事やサービス提供を心掛けている。	
			(外部評価) 開設前には、近所のお宅にあいさつにうかがったり、自治会の寄り合い時には、法人や事業所の説明を行う等して理解を得られるよう取り組んだ。5月に中学校で地区の運動会が行われた際には、管理者が組の一員として参加し、近所の方達と一緒に競技に出た。10月の秋祭りにはみこし、11月には亥の子が来てくれた。運営推進会議時に、地域の方から「移動スーパーが来る日に地域の方も利用できるよう声かけてはどうか」と提案があり、管理者は近所のお宅を廻って案内した。現在、2軒ほどのお宅の方が利用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で地域の方をお呼びしているが具体的なものはまだない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
				運営推進会議に地域の方に参加していただき意見交換の場を設けているが、家族様の参加が少ない現状がある。
			(外部評価)	
				会議には、自治会長や組長、民生委員や地区内の他地域密着型サービス事業所等、又、利用者やご家族2~3名、職員が参加している。事業所から、利用者や活動の状況報告を行い意見交換したり、「防災について」「口腔ケアについて」等、講師を招き勉強する時間を設けている。参加者からは、「自宅でも役に立つ」と感想がある。さらに今後は、運営推進会議に出られなかったご家族にも、会議内容等を報告して会議の取組みを知ってもらってはどうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	
				必要な情報は管理者が窓口となり連携を図っている。
			(外部評価)	
				地区内にある地域密着型サービス4事業所が自主的に集まり、連絡会を作っており、時には、地域包括支援センターの担当者の参加もある。今後は、サロンや老人会等、地域の方が集まるような場所に出向いて、「各事業所のサービスや役割を伝えて行きたい」と話していた。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
				事業所内でマニュアル7があり、日々の業務の中でも職員同士で互いに注意しあっている。
			(外部評価)	
				玄関内側壁の上部に設置している電子ロックを職員が解除して、玄関を開けるようになっている。2階ユニットの利用者は、階段を使って1階ユニットに遊びに来るようなこともある。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止マニュアルを作成しており、指導しあう機会を設けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護という言葉に慣れない職員も多く見られ、後見制度も聞いたことがあるという職員が多くいた。知らない言葉が多くあることを実感している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居される前に契約書を説明と了解をいただく為にしっかりと時間をとり、理解していただいた上で契約書にサインをもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議を開催した際に意見をもらいそれを反映するようにしている。 (外部評価) 管理者がご家族とのやりとりの窓口になっている。運営推進会議の後に、ご家族に集まってもらって「家族会」を行っている。ご家族から、「分かりやすい便りになるよう工夫してほしい」と要望があった際には、個別に毎月作成している便りの近況報告欄に、より具体的な暮らしの様子を書くようにした。事務所前の掲示板には、当日勤務する職員の名札を掛けている。	ご家族の立場や心情を踏まえて、ご家族が意見や要望を出しやすくなるような工夫を重ねてほしい。ご家族と一緒に活動するような場面を作る等、具体的に事業所サービスを知ってもらえるよう取り組んではどうだろうか。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1度の職員ミーティングで運営側の報告を行い、職員からの意見も聞き取り業務や運営へ反映できるよう検討している。	さらに、事業所内でも職員が勉強するような仕組みを作り、個々にレベルアップできるよう取り組んでほしい。又、職員個々に責任を持って取り組めるような役割を作る等して、職員チームを育て、事業所のさらなるサービスの質向上につなげてほしい。
			(外部評価) 管理者が職員と面談して意見等を聞くように取り組んでいる。職員は、昼食時から順番に休憩時間を取っており、職員同士でおしゃべりして関係を作ったり、ケア等について先輩職員に相談する等している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の面談を定期的に行いコミュニケーションを取ることで仕事のやりがいや不安、改善点などを話している。	
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 社内研修や社外の研修を通知、参加をしてもらいスキルアップへつなげられている。	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同地区の他事業所と連携を図り、1つの事業所会を作りネットワーク作りを行っている。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 契約前には必ず事前の面談を行い本人様の状況や取り巻く環境を確認している。入居してから不安にならないように準備や情報の共有など行っている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前の面談時や契約時、家族様より聞き取りを行い要望や課題をケアプランとして反映している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前にホームでの支援の方向性を話しあっている。そこからその方にあったプランを作成している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活の一部でできることは一緒に行い、入居者様から学ぶことも多いので職員間で反映している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様へ日々の生活状況をお話して本人様がどのような生活をおくっておられるか伝えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人様の愛用品や慣れ親しんだ生活用品等を持っていただき、馴染み場所へお連れできるように努めている。 (外部評価) 職員は、利用者の友人から電話があれば取り次いだり、親戚の方が訪ねてきた時には対応している。レクリエーションを行う時には、楽しく行えるように、会話がはずむ方同士でテーブルを囲めるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日々のあいさつを交わしたり助けあう機会が見られるため関係を維持できるように努める。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 現在終了となっている方はいません。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人様の訴えや残存機能の把握に努め生活の質の向上に努めている。 (外部評価) 入居時にご家族から聞き取った情報をフェースシートに記入している。ライフサイクル表には、時系列で食事や入浴等、利用者が行ったことを書くようにしており、1週間の生活の流れについて一目で分かるようにしている。支援内容は、介護記録に記入するようになっている。	さらに、利用者の生活歴や現在、今後の暮らし方の希望等についての情報を蓄積して、利用者主体の支援が実践できるように介護計画につなげてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の情報の確認や本人との会話で得られる情報で把握に努めている。家族様との面会時にも過去の話聞き情報を得ている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 普段の関わりから本人様の訴えや希望を聞き、ADLや残存機能の把握し職員間で共有している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>定期的介護計画についてのカンファレンスを行っている。その中で見直しを行い本人様、家族様の要望を反映している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>管理者が介護、看護職員と担当者会議を開き、課題を検討して6ヶ月ごとに介護計画を作成している。ご家族には事前に利用者の暮らしやケアについて要望を聞いている。ご家族から「車いすを利用しているが、歩行できるよう支援してほしい」と希望があり、歩行練習することを計画に挙げる場合もある。現在は、骨折等、利用者の状態変化時の見直しは遅れがちになっているが、今後は、現状に即した計画作成に取り組み、職員間で計画を共有して実践する仕組みを作り、利用者の生活の質向上に取り組んでほしい。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>普段の状況を把握し、変化があったことは記録し共有している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ニーズに合わせた対応を心掛けて行っている。施設内外にとらわれず実現に努めている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>今後地域との交流を増やし、入居者様の生活がより良くなるようにしていく。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) それぞれの主治医と連携を図り職員全員で変化の早期発見に心掛けている。	
			(外部評価) 入居時に、往診可能な協力医療機関に変更するようなケースもある。以前からのかかりつけ医を受診する方には、管理者は同行して支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 体調変化などはすぐに看護師へ伝えている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した入居者はまだおられない。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合の方針や看取りの指針を作成しており契約時には概要を説明している。 現在はまだ看取り等行っていないが、必要時には改めて説明を行い了解を書面にて得るようにしている。 その際は医療との連携も欠かさない。	
			(外部評価) 利用契約時に「看取り介護に関する指針」をもとに大まかに説明しており、重度化した場合や看取り支援についても対応することを話している。現在は、利用者やご家族等から看取り支援の希望は出ていないようだ。事業所には重度の利用者も対応できるように特殊浴槽を設置している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 施設に設置しているAEDの使用方法や心臓マッサージの講習は施設内で行ったが、全職員が習っているわけではなく応急処置などは訓練を行っていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 半年に1度の避難訓練を行っており災害時の対策を行っている。地域との連携ができるように関係づくりをしている。 (外部評価) 8月には、消防署の協力を得て職員、利用者で避難訓練を実施した。消火器の使い方も習った。管理者は、伊台地区防災会議に参加して、地域の自主防災についての情報を得ている。地域の内覧会の際には事業所にAEDを設置していることを説明した。管理者は今後、運営推進会議と避難訓練を併せて行い、地域の方やご家族と一緒に夜間の火災想定で訓練を実施したいと話していた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 各一人ひとりの人格を知り生活歴や経験に配慮した声掛けができるように努めている。 (外部評価) 管理者は職員に、利用者に強制をしないよう話している。人形を娘と思っている利用者には、職員も利用者と同じようにして、対応している。調査訪問時、体調が優れない利用者があり、着替えの際痛みを訴えるようで、日中寝間着で過ごしているような方が見られた。利用者の意欲や自信につながるような職員のかかわり方について、個々にスキルアップできるような取り組みをすすめてほしい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人様の要望や希望を尊重しそのサポートを職員が行い最終的な判断は本人様の自己決定を促している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日その時の状態、心情を察して寄り添える支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) おしゃれをして本人らしさを保てるよう配慮している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 好みの味付けや好きなものを聞き、洗い物ができる方などは手伝ってもらっている。 (外部評価) 業者から決まったメニューでおかずや食材が届くようになっており、早出職員が昼食を作る等、調理担当を決めている。職員も利用者と同じものを一緒に食べ、順番に別の部屋で休憩を取るようになってい。ミキサー食の食事を自助具を使ってご自分で食べる利用者には、職員が隣りで食事しながら見守ったりサポートをしていた。ユニットによっては利用者が下膳等している様子が見られた。利用者の誕生日には、主食をちらし寿司に替えてお祝いしている。お正月には個々にお重を用意して、お正月気分を味わう予定になっている。	利用者一人ひとりが食事を楽しめるように工夫できることはないか、職員で話し合う機会を作ってほしい。利用者個々の食事のこだわりや好み、習慣等を知ること努め、支援に採り入れてはどうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 健康チェック表で食事量や水分量の確認は毎日行い、適切な栄養が摂取できているか観察している。必要に応じて看護職員へ報告し対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアは必ず行うよう声掛けしているが本人様の嫌がられる際はうがいのみなどしてもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	自身のタイミングで排泄できるように支援を行っているが、排尿が困難な方や尿意を伝えることができない方へは定期的に確認をさせてもらっている。	
			(外部評価)		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	水分量の確認、便通を促す食事の提供や腹部のマッサージを行い便秘解消に努めている。	
			(外部評価)		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	定期的な入浴の日を設けてはいるが、本人様の意思を優先させている。	
			(外部評価)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	本人様のタイミングや日々の生活パターンから休息の時間をとれるよう促している。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋に目を通して確認している。不明な点は看護師へ相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりご自分の時間の過ごし方ができるよう努めている。趣味、嗜好、役割の把握。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 希望に添えるように可能な場合は外出して気分転換を図っている。	
			(外部評価) 毎月外出の予定を立てて、菊花展を見に行ったり、お寺参りに出かけたりしている。又、ユニットによっては、大型スーパーに出かけてフードコートでおやつを食べて帰るようなこともある。この一年間、利用者が生まれ育った場所に複数の利用者で出かけてみることに力を入れて取り組んだ。利用者は喜ばれて、「こんなに変わったのか」と感想を話し、以前の様子等についても話してくれたようだ。さらに、日頃の散歩等から、近くにちょっと出かけて過ごせるような場所を見つけてはどうだろうか。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出時など希望の際はお金を使えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば電話を掛けて家族や友人と話をできるようにしている。ご自分から電話を掛けたいと言われる方が少ないので気持ちを伺いつつ支援していきたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			清潔を保ち旧友の空間には季節の感じられる掲示物を飾っている。雑音となるような大きな音には気を付けている。	
			(外部評価)	
			玄関にはプランターにパンジー等を植えて飾っている。室内には各所にクリスマスの飾り付けがなされている。ユニットごとに建具の色を替えており、それぞれ雰囲気の違いがある。窓から、山の様子やお天気がかがえ、調査訪問時には利用者が職員に「今日は曇っていて雨が降りそうやね」と話していた。	利用者が主体的に生活できるような共用空間の環境づくりに工夫してほしい。活動意欲を触発させるような物品や雰囲気作り、生活感や季節感を感じられるような取り組みに工夫してほしい。利用者の以前の暮らし等を探ってみてはどうだろうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			テーブルとソファなどそれぞれの場所で気兼ねなく過ごしている。食事の際の席などは配慮しつつ気持ちよく過ごせるよう努めている。 職員もまた会話に混ぜてもらったりして会計性を築いている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			自宅から使い慣れた物を持ち込んでもらい居心地の良い空間となるようにしている。	
			(外部評価)	
			ベッド・クローゼット・エアコンが備え付けてある。居室の環境整備とご家族への便りの近況報告文章作成は、利用者個々に担当職員を配置している。体調が優れず居室で食事する方には、職員も利用者の方と一緒に食事をして支援している。時には、仲良しの他利用者が居室を訪れ、おしゃべりしたり、「早よ良くなりなさいよ」と言葉をかけられるようだ。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			手すりや介助バーなどの利用で昨日の維持に努めている。また居室には名札を用意して一目でわかるようにしている。	